

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0070402444	
法人名	医療法人社団 秀友会	
事業所名	グループホーム「サンファミリー」	
所在地	福島県いわき市常磐藤原町大畑13-1	
自己評価作成日	平成21年8月31日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町竹の花20番地
訪問調査日	平成21年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

女性入居者が多いので、おしゃべり、ホーム内外の花植えや活花など、明るい雰囲気作り力を入れている。季節感を肌で感じることができるよう、散歩やドライブも積極的に行っている。また、ご家族へ毎月1回は写真を添えた手紙を送り、入居者様の様子をお伝えしている。スタッフ同士は相互に何でも話し合える関係にあり、コミュニケーションがとれている。毎月1回以上は勉強会を開催したり、外部の研修会に参加して、よりよいケアの実践のため努力している。入居者の高齢化と、身体機能の低下などから、車いす利用者が1/2をしめる状況にあるが、できそうなことをできるように、できることは継続できるように支援し、それぞれのやりがいを持った生活を送っていただけるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

屋外で利用者さんとスタッフがテーブルを囲み穏やかな雰囲気の中で談笑していた。施設内では、利用者さんがそれぞれ自分の思うままに行動し、スタッフはそれらに沿って行動していた。スタッフは笑顔で明るく、利用者さんの表情も穏やかで、一日がゆったりと流れ心静かに過ごして頂くよう心がけているように感じた。スタッフ全員が日々努力を重ね、奮闘しながら一人一人の利用者さんにあった介護に心がけている結果であることがわかる。また、居室の入り口にはご自分の部屋であることが認識できるよう、お一人お一人のなじみの飾り付け等をめぐるしにしたり、利用者さんがいつでも気兼ねなく家族等と連絡がとれるよう、公衆電話を設置するなどの工夫が見られた。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	穏やかな気候、静かな環境に位置する当ホームでは、地域の皆さんとともに「温かい家、温かい地域」を目指している。	・気候の良い日は屋外にてテーブルを囲み談笑しながら陽射しや風を肌で感じる様に、そして花植えや野菜作り等し季節感を感じる様にしている。	・入居者の方々は表情穏やかかホールではTVを観たり和やかに会話したりと、ゆっくりとした雰囲気でした。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	運動会や文化祭などの行事、散歩や買い物に行くことで地域の方々と交流している。	・地域主催の運動会や文化祭に参加、文化祭には入居者手作りのコースターを出品。 ・文化祭準備のお手伝いには職員が必ず参加。 ・地域に方々へワンポイント(行事等)のお知らせ配布。 ・地域中学生の職場体験学習の受け入れ。	周囲に住宅地等がない為、地域とのかかわりが難しいとは思いますが、現活動を維持継続し今以上の地域の方々との交流作りを。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとしても認知症ケアの啓発に努めている。また、実習生やボランティア、職場体験などの受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	地域包括支援センターと相互に研修内容について伝達したり、ご家族の方や地域の方と行事を一緒に行うなどしている。人材育成などについてもご意見をいただいている。	・定期的な会議に出席、地域の情報を反映している。 ・地域包括センター担当者との相互の研修内容の伝達により共有でき、実践につながっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員派遣事業やキャラバン名と事業所を利用したり、地域包括支援センターへなるべく立ち寄るようにし、事業所の実状や考えを話している。	・介護相談員派遣事業・キャラバンメイト事業の利用・担当窓口へはなるべく立ち寄りよう心掛けている	事業所からの立ち寄りを積極的に行い今まで以上にホームを認知してもらえよう協力関係作りを頑張ってください。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外はドアも窓も解放している。勉強会を行い、絶対に拘束は行わないことを共通理解としている。拘束による弊害の恐ろしさを勉強会を通して伝えている。	・夜間以外は玄関・窓は施錠しない。 ・拘束は行わない事への理解と弊害の認識を共有する為の勉強会を行っている。 ・入居者の自由な行動に対し危険がないように目配りや見守りを心がけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する勉強会を行い、それを元に、スタッフ1人1人が、自分たちのケアが虐待になっていないか相互に確認、考えながら対応している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加とその伝達講習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に1項目ずつわかりやすく言葉を置き換え足り具体例を挙げるなどして説明し、理解を得ている。起こりうるリスク、利用料などについても説明し、不安を解消している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の窓口を決めているほか、意見箱の設置、はがきでのご意見伺いに取り組んでいる。面会時は、家族と本人だけでなく、スタッフと家族が気軽に話せる雰囲気作りに留意している。	・相談・苦情窓口、意見箱の設置、はがきでのご意見伺い等の取り組み。 ・毎月、家族へ手紙で写真を添えて近況報告。 ・面会時に家族から気軽に相談や意見を話せる雰囲気作り。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	日頃より、管理者に検討してほしいことなど相談できている。また、管理者は事業主へ必要なときに相談できている。	・質の確保を図る為、外部研修参加及び毎月1回以上の勉強会やカンファレンスを開催し、管理者と職員、職員同士とのコミュニケーションが十分にとれており、何でも話し合える関係作りが出来ている ・必要に応じた事業主への相談をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ1人1人にあつた研修への参加や役割を与えることで、スキルアップや意欲向上できるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを	研修会への参加、カンファレンスの担当性や研修の伝達講習を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の際に他事業所の方と現状を話し合い、アドバイスをもらったりするほか、いわき地区の交流会へ参加。職員の相互交換研修を予定している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が、今何に困っているかを良く聞き、きちんと把握することで、その状況に応じた対応を心がけている。一緒に考えたり、相談に乗ることで不安を取り除き安心してもらうことにつとめている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談から、これまでの経緯についてゆっくりと話を聞き、ご家族の悩みや一番の問題点を把握している。相談するご家族の立場になって受け止め、相互に信頼できる関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人やご家族の思い、状況などを確認し、できることはすぐ対応。相談の趣旨を把握し、事業所内で抱え込まずに書く関係機関へ相談し、迅速で的確かつ柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや苦しみ、不安、喜びを知り、暮らしの中で喜怒哀楽を分かち合い、ともに支え合う関係作りに留意している。そういった場面が多くもてるような声かけや場面作りに工夫している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者やスタッフの思いをきめ細かに伝えることで、家族との協力関係が築けることが多くなっている。ご家族には本人の良いところ、本人にはご家族の良いところを伝えるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院の利用、店での買い物、友人との外出ができるように支援している。	・その時の状況や希望に応じ随時対応している。 ・いつでも電話できるようにホールの一角に公衆電話を設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく過ごせるような場面や話題の提供をすると同時に、心身状態やそのときの気分で変化する気性に留意し、見守りと情報共有に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られた方、入院された方へ面会に行ったり、相談に乗り、継続的なつきあいができるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を	利用者それぞれの希望などを良く聞き、それに添って検討会議にてスタッフ全員で意見を出し合い、本人の思いを把握し、ケアに生かす工夫をしている。	・随時検討会議を開きケアに生かす工夫の実践。 ・困難時に対して、職員個々の判断にまかせ、臨機応変に対応	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人などからの情報などを聞き取り、記録する。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録の中から利用者の一日の行動、本人のできること、興味のあること、趣味などを把握・共有し、生活の中で生かせるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスと、随時の検討を行い、職員の意見、ご家族の希望、本人の思いが反映できるようなケアプランの作成に努めている。	・毎月のカンファレンスと問題発生時に随時検討会を行っている。 ・家族や本人と密に話し合いをし、希望や思いを反映しながらプランの作成や見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や申し送りノートを活用し、職員全員が日々の情報を把握できるようにしている。業務前には必ず目を通し、サインをすることにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大正琴や歌のボランティア、通い慣れた美容室、介護相談員の訪問などを生かしながら、できることや好きなことが継続できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前に希望する主治医を確認し、納得を得られた医師に診察いただいている。基本的に受診は事業所で行っているが、状況に応じてご家族に同行してもらおうこともある。</p>	<p>・本人・家族の希望に添ってかかりつけ医を決めている。</p> <p>・受診介助を行い、状態報告により指示を仰ぐ。状態によっては家族同行や往診を依頼することもある。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>緊急時は併設老人保健施設の看護職へ連絡、相談している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や医療ソーシャルワーカー、医師、看護師と連絡を取り、回復女王強を把握して速やかな対応支援および今後について話し合っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「家庭でできる看護の範囲」ということを説明・ご理解いただき、状況に応じて医療機関に受診してもらう。入居時点、変化があった時点でご家族の意向を確認し納得の得られるように話し合いをしている。	・入居時に終末期対応について家族の意向の確認 ・重度化時、再度家族の意向の確認と事業所が対応し得る最大のケア(家庭でできる看護の範囲)の説明と理解及び納得の得られるよう話し合う。 ・状態に応じ受診し主治医と相談し指示を仰ぐ。	人として人生を生き切る事に私達はどれだけ支援できるかを自分自身に問いかけ考えながら対応していただきたいと思います。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事対応マニュアルの作成と読み合わせ、救命救急講習を順次受講している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設老人保健施設との合同避難訓練の実施、火災については火を出さないように留意点検を行っている。	・定期的に併設老人保健施設との合同避難訓練を実施している。 ・火をださないように常に留意点検をしている。 ・災害時の連絡網作成	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できにくいことや失敗したことがあっても、目立たず、さりげない声かけや対応をしている。	・本人の気持ちを大切に、さりげない対応を心掛けている。 ・その人・その時に合わせた言葉かけ。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服、食べ物、花など複数の選択肢から選んでもらったり、買い物に行ったときに食べたいものを伺って購入したり、外出の際の化粧品などは相談して決めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、利用者の気持ちに配慮したりして無理強いすることなく買い物や散歩をして支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と相談してアクセサリや口紅の色を決めたり、なじみの美容室に行くなどして連携を盗っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。</p>	<p>栽培した季節の野菜、いただいた旬のものなどを収穫、下ごしらえの手伝いをいただき、味見、森ryけ、片付けを一緒に楽しみながら行っている。</p>	<p>・高齢及び認知症の進行に伴ない意欲低下見られる為、それぞれの状態に合わせて出来る範囲内で行っている。</p> <p>・職員と一緒に食事をしている。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人一人の食事形態が違うため、盛りつけや量などに配慮。水分はトータルで1500ml以上摂取できるようにしている。自助具や食事形態の工夫も検討しながら、おいしく、食べやすく摂食できるようにしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後のブラッシングや義歯預かり、うがいなど、個々に応じた対応を行い、清潔につとめている。また、緑茶を食後にしっかりと飲んでもらうようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握し、時間を見計らって排泄を促したり、身体機能をみながらなるべくトイレで排泄できるようにしている。	・その人のペースで時間を見計らって排泄誘導している。・残存機能を生かしながら、なるべくトイレにて排泄できるように援助している。・夜間、ポータブルトイレ使用の方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の豆乳およびヨーグルト摂取、食物繊維、食材の工夫、散歩や体操などの運動を取り入れ、自然な排便がみられるようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに希望する時間帯に入浴できるようにしている。入浴前に検温血圧測定を行って安全に入浴できるようにしている。入浴時は皮膚状態や打撲の有無などの観察を行っている。	・一人一人の希望に添った時間帯での入浴。・健康チェック及び全身状態観察。・家庭風呂にて、気兼ねなくゆっくりと入浴できる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くし、生活リズムを整えるようにしている。一人一人の体調や表情をみて適度な休息がとれるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在使用、内服している薬は、ファイルを作成。一人一人の薬の内容、用法、用量について把握している。服薬時は状態に応じて口の中に入れるか手渡すの援助を行う。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や畑仕事、台所仕事や趣味など、利用者の経験を発揮できる場面を作り、楽しく過ごせるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	広い敷地内での散歩や畑仕事、戸外への散歩や買い物ドライブなどを可能な限り行っている。	・希望に添ってできる限り対応している。・家族対応での外出。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力で、自分でお金を持っている人もいるが、買い物や外出先で自らお金を出すことはない。職員へ小遣いをくださる時はうれしく預かり、管理者が一括してご家族へ戻すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と電話しやすいように、会話が他人に聞こえないように工夫したり、毎年年賀状を出すための支援を行い、希望に応じて手紙や電話ができるように支援している。	/	
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下が暗いので照明を消さないようにするとともに、季節の花や飾り付けを一緒にしたり、好きな音楽を流すなど、居心地の良い空間作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外、ホール、玄関、廊下にはベンチやイスを設置し、一人で過ごしたり、気の合う方と過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	自宅で使用していたタンスや布団を持ち込んでいただくほか、写真や位牌など大事なものを持ち込んでいただくことで、その人らしい部屋となるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の協力を得ながら勤めている。 ・使い慣れたタンスや布団、家族の写真や位牌の持ち込み。 ・その人らしい部屋作りの工夫。 ・自宅を忘れずに生活できる様に支援している。 	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて、トイレ、廊下、浴室に手すりを設置している。。台所の調理台は低く設定。また、混乱を招くものについては撤去し、その方に応じた環境設営をしている。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 サンファミリー

記入担当者名 佐川 友恵

評価結果に対する事業所の意見

特になし。

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。